云フ、

〔夫木和歌抄二十七猿〕六帖題　爲家卿

時雨ゆく秋のこずゑの木葉ざるわがいろがほにをしみてぞなく

〔和漢文操六箴〕猿箴　僧一空

あらめでたや、猿は山王のつかはしめにて、老ては奥山に千とせをかさねて、岩に苔猿の名をかふむり、若きは孫子の枝もかさねて、木の葉猿ともいふなるよし、

〔靈松錄〕威鐵炮之義申上候書付

千匹牧猿

御付紙

伺之通たるべく候、尤行列に爲持候は無用に候、

銀山見分之儀、嶮岨深山江入込候而は、青葉の節、千疋牧と申猿、夥敷出、山入相障候義間々在之候、冬枯の節は、石塊等打候得共、青山に而は結句相集り候義御座候、左候而は、殊の外手間取、指支申候、罷成候御義に御座候はゞ、無玉威鐵炮爲打候樣仕度奉存候、猿に不限、猪鹿狼等、青葉の節は、居所不相知、不時に相障候儀に御座候、私持筒貳挺、諸國御關所通用仕候樣、御留主居中江御斷被下候樣仕度奉存候、已上、

亥五月　川崎平右衞門

獑猢

〔和漢三才圖會四十寓類惟類〕獑猢（ざんこ）　鼯鼬

鼯鼬、此乃猨蜼之屬、黑身白腰如帶、手有長白毛、似握版之狀、甚捷在樹上、騰躍如飛鳥也、

〔雲錦隨筆三〕同時〇文政五年に駱駝の觀物小屋の傍邊にて黑猿を見せたり、其形小く、凡長一尺二三寸許、尾長く全身黑く、腰の邊白し、是亦奇とするに足れり、和漢三才圖會に獑猢、又鼯鼬とも書る獸あり、全く是類なるべし、